

江藤俊哉



江藤俊哉

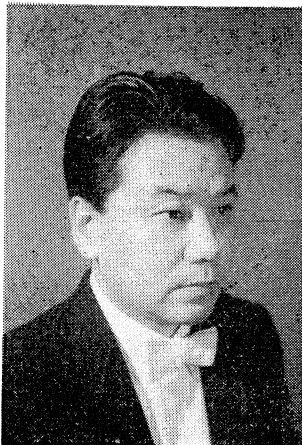
1927年、東京で生れ4才のときから鈴木鎮一氏にバイオリンの手ほどきをうけ、21才で毎日コンクールに出場、一位に入賞し文部大臣賞をうけた。1948年渡米フィラデルフィアのカーティス音楽学院に入学、エフレム・ジンパリスト氏の特別指導を受けた。この間1951年にカーネギーホールでデビューし、日本人のバイオリン奏者として初めて国際音楽家の地位を確保した。58年には再びカーネギーホールにて独奏会をもち、12月にはアメリカ・デツカレコードの専属となり、録音を開始した、1961年5月、日本永住の念願を実現するため、カーティス音楽院の教授を辞任し東京に居をかまえた。

江藤俊哉と名器

江藤氏が使用しているバイオリンは、世界で「フランスのストラディバリウス」と呼ばれて珍重されているニコラスリマポの名器で1815年の作であるから、ストラディバリウスより約一世紀新しい時代といえバートーベンが、ウィーンで活躍していた頃のものである。しかしその独特の音色の美しさと響きの豊かなことは、ストラディバリウスを除いて他にその比を見ない。特に氏の愛用しているものは、カーチス音楽院のコレクションに加えられていた傑作で氏が学生時代、氏の天才的な才能を認められて特別に学校から貸与されていたものを、卒業と共に氏の懇望によって所有の許可されたものである。



g. Sumi



鷺見五郎

大正5年米子市に生れる。明治学院を卒業の後音楽学校に入学、笈田光吉、クロイツァに師事。ピアノ演奏のみならず、作曲、編曲にも「シユーベルト女声三部選曲集」「アヴエマリア集」など——持前の才能を 拡げておられます。三郎、四郎両氏と共に音楽兄弟としても有名です。ニューモード・オーケストラを編成し、38年1月米子の舞台を飾っていることも記憶に新しいことと思います。